

「オーパンバル in JAPAN」において 柴田悠貴さんが日本代表に選ばれ、 本場ウィーンへ

1月17日、大阪国際会議場において、ヨーロッパの若者が社交界にデビューする際に開催される舞踏会「オーパンバル」を日本風にアレンジした第4回「オーパンバル in JAPAN」が開催され、柴田悠貴さん（経済学部3年）が日本代表として選ばれ、ウィーンで開かれた本場のオーパンバルで社交界デビューを果たした。

「オーパンバル in JAPAN」は新成人を対象として催され、一般公募した112名の中から、柴田さんを含め4名が代表に選ばれた。選ばれた代表は日本で1カ月間、ダンス指導を受け、ウィーンに出向いて、2月18日のエルマイヤーダンス学校における最終テストに臨み、全員が無事通過。ウィーンオペラ座のオーパンバルに参加した。

柴田さんは、全国国民スポーツダンスフェスティバル（全日本戦）・団体戦4位（兵庫県代表）、西部ダンス選手権大会（西日本大会）A級戦スタンダード4種目・準優勝など数々のダンス大会において、優秀な成績を挙げており、本学卒業後はダンス留学し、プロをめざす。



ウィーンにて（左から2人目：柴田悠貴さん）

【同窓生】

横山憲一さんが、 アジア大会の野球日本代表で活躍

昨年12月にカタールのドーハで開催されたアジア大会の野球日本代表に、横山憲一さん（2004年文学部卒、三菱重工業神戸・硬式野球部）が選出され参加した。結果は、最終日の12月7日に金メダルをかけて中華台北と対戦したが、惜しくも8対7でサヨナラ負けを喫し、銀メダル獲得となった。横山さんは主に全日本の5番打者としてサードを守り、大会通算15打数7安打、打率.467で全選手中4位の好成績を納めた。今年度もドラフト候補としてマスコミ各社に取り上げられ、来年度には甲南初のプロ野球選手誕生の期待が高まっている。

【行 事】

環境総合研究所・兵庫県教育委員会共催 「平成18年度10年経験者研修：環境教育」

平成18年度兵庫県立高等学校10年経験者研修における選択研修『環境教育』が、甲南大学環境総合研究所の共催の下、1月9日、15・16日、22・23日の5回（全15講）に分け、実施され、10名の教員が参加した。本研修は、兵庫県下における教員在職期間が10年の県立高等学校の教諭に対して、個々の能力、適性などに応じて、教諭としての資質の向上を図るために実施される研修であり、甲南大学で行われるのは今年で4回目となる。

今回は、フィールドワークを通しての「里山における環境教育」の推進と、「e-ラーニングによる環境教育ネットワーク」の構築をはかることを目的とし、谷口文章甲南大学環境総合研究所長・文学部教授がコーディネーターとなり、山田卓三氏（兵庫教育大学名誉教授）、金田平氏（財団法人日本自然保護協会顧問）、鈴木修二氏（国土交通省国営明石海峡公園事務所長）などを講師に迎えて、環境教育について理論・実践の様々な視点から研修を行なった。

1月9日は本校舎（277号講義室）において、「あいな里山公園の概要」、「里山と環境教育」などの講

義が行われ、15・16日はあいな里山公園でフィールドワークとゼミ形式による実習が行われた。また22日は「環境教育における国際ネットワークづくり」をテーマに、甲南大学とタイ・プラナコーン大学(バンコク)及び兵庫県立教育研修所の三地点を結んだ講義と実習が行われた。eラーニング理論とテレビ会議システムによるデモンストレーションはリアル・タイムで実施され、ネットワーキングの状況と方法を研修した。最終日の23日は「あいな里山公園の組織作りについて」の講義があり、その後、意見交換会が行われ、最後に谷口文章教授のまとめで講習会を終了した。



フィールドワークのためのオリエンテーション

経営学部講演会 「神戸発アパレル企業の戦略展開と 起業へのチャレンジ」

経営学部は、神戸商工会議所と共催で、2月20日、142号講義室において、(株)リステアホールディング取締役副社長 吉川稔氏を講師に招き、「(株)リステアホールディングの企業戦略—ブランドの創造と新しいライフスタイルの提案—」をテーマに事例研究講演会を開催した。当日は本学学生、他大学学生、アパレル企業関係者、そして一般の方々など約170名が参加し、講師の話に聞き入った。

企業価値・ブランド価値を高めるための戦略形成のプロセスと課題、そして成長戦略における規模の経済性と範囲の経済性の二面性に関して興味ある話が、また吉川氏の現職までの就業経験談から、就職活動に取り組む学生にとって有効な示唆に富んだ話が行われた。最後に、コーディネーターである西村順二経営学部長との間で、市場適合に関する今後の

戦略と現在の企業に求められる学生像に関して質疑応答が行われ、講演は成功裡に終了した。

なお、この講演会は兵庫県平成18年度むらおこし事業等地域活性化事業補助金の助成を受けて行われたものである。



経営学部講演会

企業法務研究所公開研究会

3月7日午後2時より、121号講義室において、本学企業法務研究所とジャパン・コーポレート・ガバナンス・フォーラムとの共催で、「敵対的買収とコーポレート・ガバナンス—王子製紙と北越製紙の攻防を巡って—」をテーマに、公開研究会が開催された。コーディネーターは荻野博司氏(朝日新聞論説副主幹)、レポーターとして、大楠泰治氏(クレディ・スイス証券投資銀行本部法人統括本部長)、家近正直氏(本学法科大学院教授・弁護士)、家田崇氏(本学会計大学院助教授)が各々報告を行った。

米シティによる日興コーディアル証券に対する買収が報道される昨今、社会的に注目を集めた王子・北越事件のケーススタディとして、実務における生々しい攻防のドラマの紹介と、法律的な側面からの主として理論的な検討がなされ、大変有意義な研究会となった。

研究所とフォーラムは、今後とも、関西圏におけるコーポレート・ガバナンスの研究と普及のため、このような形での研究会を継続的に開催していくこととしている。